

## 中学校 社会科 部会

部会長名 香春町立香春思永館 校長 安藤 志保美

実践者名 川崎町立川崎中学校 教諭 江口 悦正

### 1 研究主題

「生きる力」を育む学習指導の研究  
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 社会の要請から

知識基盤社会といわれる現代であるが、近年顕著となっているのは、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会変化が予測を超えて進展するようになってきていることである。子どもたちには、このような予測不能な社会を生きるために必要な力である「生きる力」を育成することがより一層求められている。このような状況を踏まえ、中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）では、今後、子どもたちに育成すべき資質・能力は①生きて働く「知識・技能」②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」であるとしている。また、学校においてこれらの資質・能力を育むためには「社会に開かれた教育課程」の理念に立脚した組織運営の改善と授業改善を図ることが重要であるとし、改善の視点として「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を提起している。中央教育審議会答申を踏まえ、平成 29 年告示学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫等を引き出していくことができるようにするために、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。また「どのように学ぶか」について、教育課程編成・実施の在り方（カリキュラム・マネジメント）や子どもの主体的、対話的で深い学びを実現するための配慮事項が示されている。今後、各学校では学習指導要領で示された内容等をもとに授業改善を進めることが急務となる。以上のことから、平成 29 年告示学習指導要領の全面实施を踏まえ、本主題を掲げた実践研究を行うことは、本郡学校教育の充実を図る上で大変意義深いと考える。

#### (2) 生徒の実態から

児童生徒を取り巻く環境は、急速に変化し、特に情報通信機器の進歩は目覚ましいものがある。スマートフォンの所持率は、学年が上がるごとに高くなり、このことが基本的な生活習慣の定着や健康面にも少なからず影響を及ぼしていると考えられる。本郡の学校教育においては、子どもたちの学力の向上が大きな課題とされて久しい。全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査の結果によると、全国・県の平均正答率、

さらには筑豊地区の平均正答率よりも低い学校が多く存在する。特に思考力・判断力・表現力を問う問題のポイント差は大きい。また、小学校は徐々に改善 傾向にあるものの中学校では横ばいの状況が続いている。各学校における実践においては「かく活動」や交流活動や、自分の考えを発表する場の設定などの活動を設定した実践は増えてきているものの、活動そのものが目的になっている場合も少なからず見られ、児童生徒に確かな学力をつけることに必ずしもつながっていないと考えられる。こうした状況を踏まえ、本研究においては、活動そのものを目的とするのではなく、活動の中で「何を学び」「何ができるようになるのか」を児童生徒に実感させる とともに「主体的、対話的で深い学び」を実現することで「生きる力」を育むことにつながるものと考えた。

### 3 主題の意味

- (1) 「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自分学習活動をふり返って次につなげる学びである。
- (2) 「対話的な学び」とは、子ども同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自分の考えを広げ深める学びである。
- (3) 「深い学び」とは、習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びである。
- (4) 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とは、上記の3つの学びの視点から学習過程の質的改善を行うことであり、そのことを通して「生きて働く知識・技術の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」を育成するものである。

### 4 研究の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して「主体的・対話的で深い学びの実現」を図る。

### 5 研究仮説

学習過程において、次のような手立てをとれば、「主体的・対話的で深い学びの実現」につながるだろう。

- 複数の資料をもとに、自分の考えをまとめ、記述する活動に取り組みさせる。
- 他者との意見交流を通して、自分の考えを再構築させる活動に取り組みさせる。

6 研究の計画(授業の計画)

(1) 単元(題材等)「私たちの暮らしと経済」

(2) 単元(題材等)の目標及び指導計画

次	学習活動・内容	評価基準
1次	○班で、本単元の学習計画を作成する。 ○消費生活や消費者の権利、流通について教科書と学習プリントを活用して、学習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 消費者の権利を守るための法律や制度を理解し、その内容をまとめることができる。(知技)</li> <li>• 不便なく消費生活を送るために流通があることを理解している。(知・技)</li> </ul>
2次 本時	○各班に消費生活に関する課題を配布し、各班で調べ学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 探究活動に自ら課題解決に向けて取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)</li> </ul>
3次	○調べた内容をスライドにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 探究活動に自ら課題解決に向けて、調べた内容を工夫して、スライドにまとめることができる。(思判表)</li> </ul>
4次	○課題発表に向けて、各班で発表原稿づくり、アニメーションの作成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 調べた課題について、課題発表に向けて、役割分担を考え、消費者生活において、注意すべき点を理解し、消費者と企業、国や地方公共団体などそれぞれの立場に着目して考察し、表現している。(思判表)</li> </ul>
5次	課題発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 消費者の生活を守るための権利や法律、制度について、その内容をまとめ、説明することができる。(思判表)</li> </ul>
6次	○単元テストを行う。 ○本単元のまとめを、学習プリントを活用して行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 消費者の生活を守るための権利や法律、制度について、理解することができる。(知・技)</li> </ul>

7 指導の展開

	学習活動	指導上の留意点（◆評価基準）	形態	配時
導入	<p>○本時の目標の確認</p> <p>○各班で前回の振り返りとめあての確認。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">賢い消費者になるために、消費生活の課題について調べよう</div> <p>○各班で、本時のめあてを決める。</p>	<p>○本時の目標の確認と今日の学習の流れをスライドで確認する。</p> <p>○本時の見通しを持たせる各班で単元計画とめあての確認をする。 （ Outlook ）</p> <p>○的確にめあてが設定できているかを確認し、必要に応じて助言する。</p>	一斉	3
	<p>○各班で課題解決に向けて、活動する。</p>	<p>○生徒が必要とする資料をロイロノートで配布し、生徒の思考をサポートする。 （ Support ）</p>	班	37
展開	<p><b>各班の課題</b></p> <p>○消費者の権利を守るための法律や制度はどういったものがあるのか、まとめてみよう！</p> <p>○2週間前に友人から電話があり、久々にレストランで会った。その際、「化粧品とビタミン剤を買って、友人を紹介するだけで収入になる。月20万円稼いでいる人もいる。商品代金のクレジットも簡単に返済できる。」と熱心に勧誘され、会員登録をして、化粧品30万円を契約した。2日後、商品と会員証、勧誘に使うパンフレットなどが届いた。早速、何人か友人を誘ってみたが、全く入会してもらえなかった。クレジットを支払えそうにもない。解約したい。</p> <p>○消費者の模擬テストを作成しましょう</p> <p>○電子マネーで支払いを行うようにしました。この仕組みと注意点をまとめよう</p> <p>○町で呼び止められて、展覧会に勧誘され、断れなくて10万円の絵画を契約してしまった。この契約を解除することができるだろうか？</p> <p>○消費者トラブルにあったとき、どのような対応をすればよいか考え、まとめよう</p> <p>○クレジットカードを作るようになった。クレジットカードには様々な種類や支払い方法がある。クレジットカードについて説明しなさい。</p> <p>○右のマークについて、それぞれ説明しなさい。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>○生徒からの質問や、生徒への助言を行うために、机間指導を行う。（ Support ）</p>		
	<p>【 予想される学習内容 】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>•教科書を活用して、学習プリントをまとめる。</li> <li>•タブレットを活用して、NHK for Schoolで学習を深める。</li> <li>•スライドを活用してまとめる。</li> </ul> </div>			

	<p>〔 書く活動 〕</p> <p>○ 消費者生活の課題について、自分の考えや調べた内容をノートやプリントにまとめたり、タブレットを活用して、スライドに文字を打ち込んだりする。</p>		
終末	<p>○まとめ</p> <p>今日の学習内容について、学習プリントを活用して、まとめる。</p> <p>まとめ</p>	<p>○自分のことばでまとめる</p> <p>◆各班がめあての達成に向けて、取り組むことができる。（主体的に学習に取り組む態度）</p> <p>◆探究活動に自ら課題解決に向けて取り組んでいる。（主体的に学習に取り組む態度）</p>	班 10
	<p>賢い消費者になるために消費者を守る制度や法律があることがわかった。</p>		
	<p>○次時の授業に向けて、計画の確認・修正をする。</p> <p>○振り返り</p> <p>学習プリントの振り返りを記入する。</p> <p>○〇イロノートで提出する。</p> <p>生徒 → 教師</p>	<p>○次時の計画の確認・修正を行う。</p> <p>（ Outlook ）</p> <p>○振り返りシートを活用して、本時の目標達成率や課題などわかったこと、気づいたことをまとめる。（ Reflection ）</p>	

## 8 研究のまとめ

思考力・判断力・表現力は、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせた学習活動を通して育成される。そして、この学習活動を繰り返すことで、見方・考え方がさらに豊かなものになり、主体的・対話的で深い学びへとつながっていく。今回の研修会では「各班に配布された消費生活に関する課題に対してどのように解決するとよいのかを調べる」ことをねらいとして公開授業を行った。

当日、生徒たちはそれぞれに配布された消費生活に関する課題について自ら意欲的に解決方法について調べ、班で調べて得た情報を共有することでまとめることができていた。また、タブレットで資料やヒントカードを配布することで、それらを活用し、自身のスライドにまとめる生徒がおり、ICT 機器の有効性を示すことができたと考えられる。さらに、消費生活の課題を解決するための単元計画を自分たちで立てることで、より生徒自身にとって身近な課題であり、この単元を学ぶことの必要性に気づくことができたと考えられる。

事後研修会では、様々な角度から意見が交流をすることができ有意義な研修ができた。この日の公開授業のように、生徒が社会的な見方や考え方を働かせ、課題に対して自分の言葉による記述をくり返す指導をすることで、思考力・判断力・表現力を高めることができると考える。

9 成果と今後の課題

- 消費生活の課題を設定することで、身近な消費生活でも課題が多いことに気づくことができた。
- 自分たちで課題の解決に向けた単元計画をつくることで、意欲的に解決方法を見つけ出そうとしていた。
- 消費生活の課題について自分たちで選ばず、抽選で行ったため、より意欲を引き出すためにも選択する場面を設定する必要がある。
- 「賢い消費者」の定義が生徒に伝わっておらず、ゴール像がなかったため、単元を通してゴール像を明確にする必要がある。

◎ 参考文献

- 中学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省
- 中学社会 公民的分野 東京書籍